

## 口蹄疫流行

旭川 稲積 文子

育みし幼なき牛を残酷に屠場に追い込む口蹄疫流行  
飼ひ主も知事も殺さないでと情けを訴える口蹄疫の流行  
動物の本能は予感もあるらしく屠場にひかれる牛が涙して泣く  
生きるとは非情を重ねる宿命か屠場の仕事につく人達も  
待ち待ちし内孫誕生のその夕べ神社の杜に虹が輝く

## 支配と服従

江別 三宅 浩次

人間の歴史に学ぶ凄まじさ支配と服従、破壊と創造  
学問の自由を個人に説きながら学会が醸す支配の構造  
科学式大量殺人人生み出す怖さ  
先軍の思想のもとに核兵器開発の影民の哀れさ  
支配する優越感の裏にある劣等感の傷の深さよ

## 大砲声

札幌 山口 康德

ビルに棲む吾子に餌与る母雀街の雑音耳など貸さず  
心技体乱さむとする悪魔の手いかつき顔も蝕まむとす  
庭先に野趣あふれたる草花も家屋変遷りて野に追いやらる  
電鳴を大砲声と思ひしや轟音におどろき牛暴走す  
悲惨なる事件起せしビットフォール事前に必ず点検せよや手抜きせず

## 平和のあかし

札幌 古屋 統

遭難者救助のヘリの惨事呼ぶはた迷惑な登山者らありて  
トムラウシ縦走遂げてわが友ら限界言いにき三十年前  
アルプスの氷河特急でん覆の一等車おおよそ日本の客  
円高に乗りて旅して日本人母國の豊かさに氣付かず帰る  
レジャー死は平和のあかし海やまに水漬くかばね草むす屍

# 北海道医歌人会詠草

## 美唄労災看護学閉校記念碑

美唄 吉村 誠治

炭砒の歴史と歩みし四十五年閉校記念碑中庭に残す  
若き日の心の故郷看護学の歌ひ継がれし校歌刻めり  
誇らかに卒へし千百十八名時には来り見よ母校の標に  
股関節の手術を終へて二週間杖に縋らず妻帰り来ぬ  
杖をつき厨に立ちて初めての妻の夕食おろそかならず

## センニンソウ

札幌 浜島 泉

奇なる花 娘送信 写メールは鮮烈白きセンニンソウの  
紅色のゲンノショウコの生ふる道峠下りつ歌聞かせけり  
草の叢そよぎ 予報は真夏日と夕風吹きて気温下がると  
「足痛い、いっそもいでや」など言ひし重度神経難病の人  
体型は上の弟 顔立ちは下のに似たりバスを待つ人

## 南十字星の下で

釧路 児玉 昌彦

サーフィンの若者つどうワイキキに海亀もまた共にたゆたう  
かなたより打ち寄せる波絶え間なき地球の鼓動伝うごとくも  
椰子の葉かげコラルリーフの樂園もかつては業火に狂いし日のあり  
あふれいでしマグマの情念燃え尽きていまサクサクと崩る足もと  
溶岩のこの世と思えぬ原拓き生き抜きし先達土に眠れる

## 初秋

栗山 高田 剛太

夕暮の医局の窓より空見れば鰯雲ゆく赤く染まりて  
引出しの奥の焼酎とり出してひと口飲みてシベリウス聴く  
秋の夜に輝ける星あまたあり胸底の淡き想いを誰か知るらむ  
七夕を前に生まれし初孫を彦星のごと待ちわびる吾  
秋風とともに都へ帰る児の乳の香りの残る頬かな